

# 動画が見られるモバイルガイド 観光ガイドマップinあomorい 青森県 森から森へ



森の美しい国・あomorいへようこそ!! 企画・制作・発行 NPO法人 青森編集会議

## 青森の旅は 森から森への旅である。 母の森、あすなろの森、りんごの森、桜の森、錦秋の森、モンスターの森 森から森へ—青森県

# 春から夏へ

ケータイ電話で二次元コードからアクセス!!

動画をダウンロードする際にパケット料金が発生します。

### 「太古の森・最終氷期の埋没林」(つがる市)

場所は、日本海に面した出来島(できしま)海岸。最終氷期(約8万~1万年前)に、洪水などの急激な変化で樹林が水没、その根が腐らずに残ったものだという。樹種はエゾマツやアカエゾマツで、泥炭層に1kmにわたって埋まっている。切り立った崖は地層がむき出して、一種独特な雰囲気空間が広がる。6月上旬撮影。

### 「海浜公園の桜の森」(青森市)

青森市の東に位置し、青森湾に面した公園が合浦(がっぱ)公園。白砂青松(はくさいしょう)の公園と称され、白い砂浜と園内に植えられた松の緑が、海浜公園のいい雰囲気を醸し出している。春にはこれに桜の花が加わり、園内はよりいっそう華やき、青森市の花見のメッカとしてにぎわう。4月下旬撮影。

### 「鱸作(へなし)の椿の森」(深浦町)

深浦町鱸作の海岸に突き出た山で、海面からの高さは56m。南斜面の上半分ほどにヤブツバキが自生している。風が強いせいか、樹高はあまり高くなく、人の背丈ほどで、横に枝を伸ばしている。この辺りから眺める日本海に沈む夕陽は最高。後背には「ウエスバ椿山」のリゾート施設が広がる。4月下旬撮影。

### 「日本一の桜の森・弘前公園」(弘前市)

弘前公園は藩政時代、津軽家の居城があった所。現在では全国有数の桜の名所で、東京ドーム10個分以上の広い園内に、ソメイヨシノを中心に約50種2600本の桜が植えられている。満開は例年だと、4月下旬から5月にかけて。桜の花で埋めつくされ、津軽三味線の音も響いて津軽の春は最高潮を迎える。4月下旬撮影。

### 「初春のブナの森」(南八甲田)

八甲田連峰には、ほんとうにブナの木が多い。5月の初めごろには、根回り穴を目にすることができ、幹の周りの雪がとけてあいた穴で、ブナの森のそこかしこにできていて面白い。その森の中に入ると、雪の上には、ブナの実の殻など、木々からの落下物がいっぱい落ちていて興味深い。5月初め城ヶ倉で撮影。

### 「桜の森・早掛沼(はやがけぬま)公園」(むつ市)

むつ市の郊外、下北半島の桜の名所として有名。16種類380本の桜が植えられ、早掛沼の周りを桜の樹が囲む。本州最北だけに、満開は4月下旬から5月にかけて。ここで紹介する動画は5月初めに撮影。青空と薄紅の桜花、それに噴水の水音がマッチして、その景色はいかにも北国の春らしく、すがすがしい。

### 「猿ヶ森(さるがもり)ヒバ埋没林」(東通村)

青森県の木に指定されているヒバは、青森県を代表するヒノキ科の常緑高木。大昔、ここ猿ヶ森一帯もヒバの大森林地帯とされ、数千年前から大量の砂が海から打ち上げられ、ヒバ樹林は立ち枯れたまま埋まってしまった。その一部が姿を現し、350mの沢沿いに183本を見ることが出来る。5月初旬撮影。

### 「自生北限のヤブツバキの森」(平内町・椿山)

椿山(つばきやま)は夏泊(なつどまり)半島の北に位置し、大小約1万本のヤブツバキが自生している。北緯41°のこの椿山がヤブツバキの分布北限となっている。国指定の天然記念物。開花期は4月下旬から5月で、花の大きさは子どものこぶしぐらい。真紅の色がなんともあざやか。4月下旬撮影。

### 「ツツジの森・天王(てんのう)神社」(七戸町)

天王神社の境内(けいだい)は小高い山で、ここに約500本のヤマツツジがある。満開時には、真っ赤な花の山となる。毎年5月には「天王つつじまつり」が行われるが、ツツジは、どれも人の身の丈以上の高さなので、いっぱいの中をかきわけるようにして散策できる。まつり期間中の5月中旬撮影。

### 「官庁街通りの桜の森」(十和田市)

十和田市の中心部に位置する官庁街通り。長さ1.1キロ、幅36mの道路両脇に156本の桜と、165本の松が植えられている。かつて馬産地であったことから歩道には、さまざまな馬のオブジェも配置されている。2008年4月には「十和田市現代美術館」もオープンした。4月下旬撮影。市役所の展望所から一望できる。

### 「新緑の鶯(つた)の森」(南八甲田)

ブナ樹林と6つの沼をたたえる緑豊かな空間。葛温泉を拠点に散策路がつき、葛沼をはじ6つの沼すべてを巡ることが出来る。草花や虫、野鳥も、多彩な生態系に出合えることも、この森の魅力。6月初旬に撮影した動画に映るセミは、春に鳴くエゾハルゼミ。ブナの根元で羽化したセミは高い高いつべん目指す。

### 「桜の森・城山(しろやま)公園」(三戸町)

城山公園は標高120mで、広さが28ha。藩政時代の三戸城跡で、本丸の櫓(やぐら)が復元されている。園内には1600本の桜があり、花見時には南部地方の桜の名所として、露店も並び、大勢の人々でにぎわう。樹齢800年以上の杉の老木も、樹高が22mもあり見応えがある。4月下旬撮影。

この自然は青森県の財産、日本の財産、そして地球の財産 — みんなで守ろう青森県の豊かな自然、豊かな生態系

青森県の“県民総幸福量”を考える 青い森ふるさと会議 SNS サイト <http://aomori-ec.jp/sns>



青森県の最高峰・岩木山(いわきさん)は標高1625m。羽黒温泉郷付近から8合目まで上る有料道路が津軽岩木スカイライン。全長9.8kmで、その間に69のカーブがある。ちょうどこの区間は紅葉を見るには最高のビューポイント。カーブを重ねるにつれ、眼下に景色が開け、終点でピークを迎える。  
10月中旬撮影。



八甲田連峰は、北八甲田と南八甲田に分かれるが、一般の観光客には、ロープウェイがある北八甲田が散策には向いている。春夏秋冬、その見所はいろいろだが、やはり錦に染まる紅葉時期が人気が高い。中でも圧巻は、毛無岱(けなしたい)で、まさに絶景! 酸ヶ湯温泉から登山道で約1時間半。  
10月初旬撮影。



### 「ミニ白神(しらかみ)の森」(鱒ヶ沢町)

「ミニ白神」は、鱒ヶ沢町の中心部から南へ車で30分ほどの黒森地区にある。世界遺産登録地域は、さらに南へ20kmだが、この山域も白神山の山系に抱かれている。52haの森は人の手が加えられておらず、ブナ樹が豊富で生態系も多彩。白神山地核心部同様の森林景観を保っている。  
5月中旬撮影。



### 「種差(たねざし)海岸・ハマナスの森」(八戸市)

海の磯浜と白い砂浜、時には緑の芝生の草原もあり、変化に富んだ美しい景観が持ち味。6月中旬ごろにはハマナスが咲き誇るが、おすすめスポットは「葦毛崎(あしげざき)展望台」周辺。  
6月中旬撮影。



### 「全山燃えるもみじの森」(黒石市)



もみじの名所として有名な“中野もみじ山”。黒石市の郊外、黒石温泉郷の近くにある。この山を囲むようにしてU字形に川が流れ、小さな滝もあって風情がある。200年ほど前に当時の藩主が

京都から苗を取り寄せて植栽したとされる。もみじ狩りシーズンのライトアップされた景観は必見。10月初旬撮影。



### 「郷土の森と弥勒ノ滝(みろくのたき)」(田子町)



郷土の森へは、田子町中心街から車で約20分。ブナ樹に囲まれ、川の流れを生かした親水空間としてよく整備されている。呼び物は「弥勒ノ滝」。高さ30m、幅20mの巨岩の面を幾筋もの滝水が流うようにして流れる様は見応えがある。その様子から“ソウメン滝”とも呼ばれる。6月下旬撮影。



南部町名川地区はサクランボの名産地で、青森県内一の生産量を誇っている。毎年6月下旬から約1カ月間、「名川さくらんぼ狩り」が開催される。地区内60カ所近く



### 「真っ赤に色づくりんごの森」(弘前市)

弘前市はりんご生産量日本一を誇る。市内郊外では、いたるところでりんご園が見られる。枝にたわかに実る真っ赤なりんごと真っ青な秋空、そして西に望む秀峰・岩木山——、弘前の出来秋を象徴する風景である。「弘前市りんご公園」では生産体験ができ、秋の収穫時期には、その場で採って食べられる。  
10月初旬撮影。



### 「十和田錦秋の森」(十和田市)

十和田湖は、標高400mの山上に満々と水をたたえる二重カルデラ湖。周囲44km、最深部で327mあり、深さでは国内3位。湖を取り囲む外輪山の紅葉の美しさには定評がある。湖の周囲に点在する展望台から眺めるのもいいが、遊覧船で湖上から中山、御倉(おぐら)両半島を眺めるのもまた格別。10月中旬撮影。

